



Sr.池崎の

ブラジルから

Boa tarde!

(ボア タールジ! : こんにちは!)

第7回目 7月24日(土)~7月30日(金)までのレポート



7月24日(土) ブラジル選抜歌謡大会

今日は、クリチバ到着時から、田丸さんに、「是非見に行ってください」と言われていた「第25回ブラジル選抜歌謡大会」の日でした。この大会は、各地区の予選を勝ち抜いてきた人が、ブラジル全土から集まり催される歌謡全国大会です。この広いブラジル全土から集まるということは、なかなかすごい全国大会だと思います（クリチバに全国大会がくるのは、7年ぶりだそうです）。6月13日の日伯文化援護協会訪問の報告でも少し触れましたが、あ那时的歌謡祭は、クリチバの予選を兼ねていました。その時にも、119組という出演者の多さと、プロ並みの歌声に驚かされました。それが、今日はブラジル全土から集まってくるわけで、なんと719組の出演者があります。クリチバの予選ですら1日かかりでしたが、本大会は、3日間をかけます（7/23(金)～7/25(日)）。今日は中日ですが、開会式も行われるということで、行ってきました。

開会式では、様々な来賓の中に、佐藤総領事やパラナ州ミスニックイ(6月19日の移民祭りで選ばれた)をはじめ多くの方が壇上に上がり、また、着物姿の女性も多く登場し、開会式に花を添えていました。ステージだけみていると、ここがブラジルだということをすっかり忘れてしまう雰囲気でした。司会は、田丸さん。田丸さんは、7月8日に行われた民族フェスティバルの時にも総合司会をしていらっしゃいました。ほとんどポルトガル語（たまに日本語も交えられますが）で意味は分かりませんが、この方の司会は、抑揚の調子がとってもすばらしく、人に語りかける話し方をされ、意味の分からない私にも上手な司会だなど思わせるものでした。



歌の方も、やはりすばらしかったです。私がみた今日の部門は、童謡の部とちびっ子の部でしたが、着物やドレス・スーツなど、どの子も格好いいステージ衣装をまとい、歌もうまいの度が過ぎている感じでした。もちろんどの子も日本語です。ただ、話によると、日本語で歌っているけど歌詞の意味は分かっていないということなので、その努力にも感服します。明日の大人の部も覗きに行こうと思っています。

ちょっと私事ですが、プログラムに、なんと「池崎」という名前を2つも見つけました。日本でも「池崎」名は珍しく、自分でも、祖先はどこにいるのだろうと思っていました。2人ともサンパウロです。ちょっと聞いたところ、サンパウロには、美容院で扱う椅子や品物を販売する店をかなり手広く扱っている「池崎」という店があるとかで、サンパウロではたまに聞く名前だそうです。もしかしたら、私の祖先はブラジル移民？

427	高田 サブリナ
428	AMANDA IKEZAKI 池崎 アマンダ
	SHOJI TAKEHARA
387	安村 まゆみ
388	JULIANA IKEZAKI 池崎 ジュリアナ
389	HIMIKA SHAKUDA

7月25日(日) 州教育局の組織とこれまでの訪問

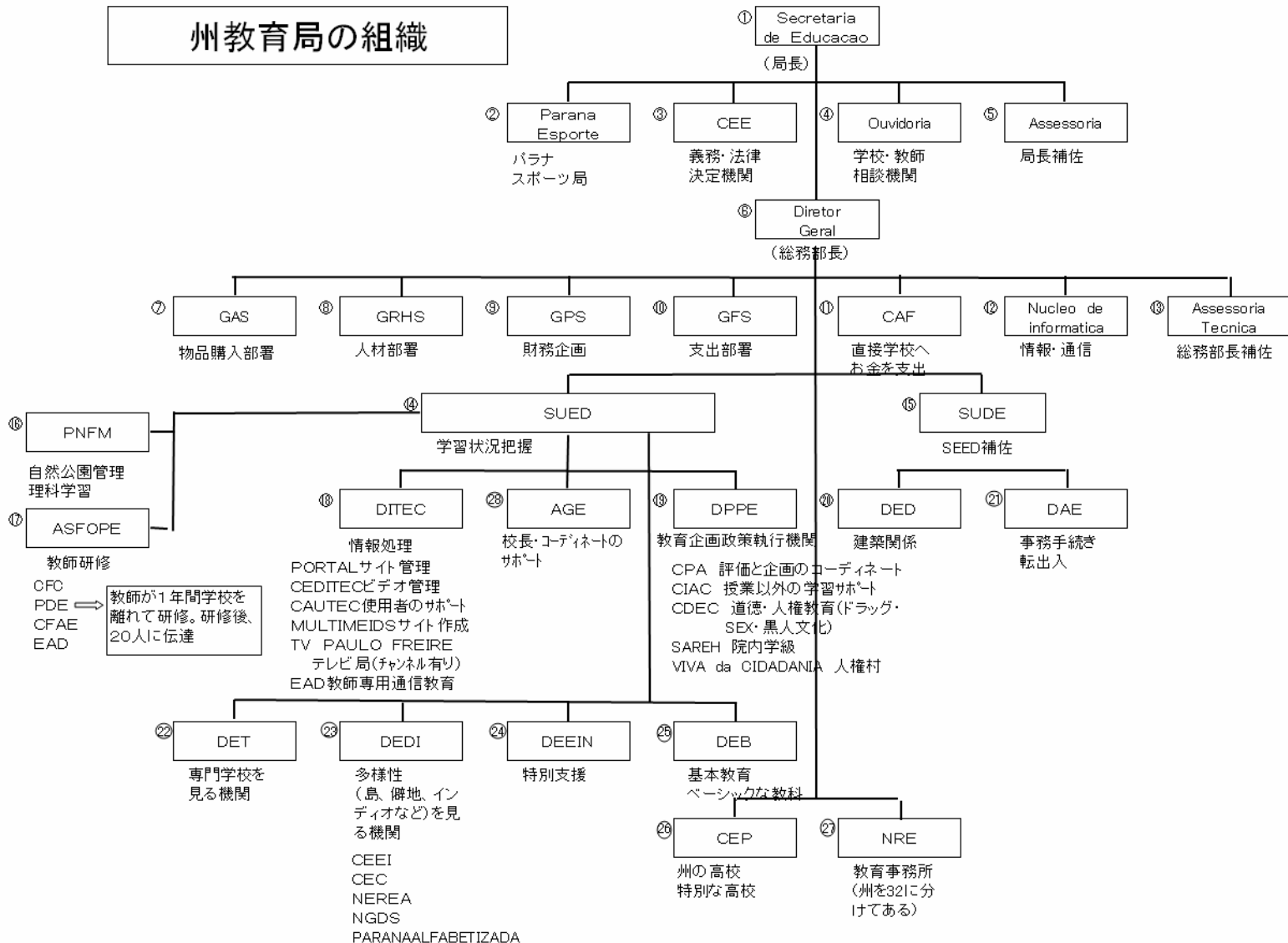
今日は、州教育局の組織の紹介をします。これまで、様々な部署を報告し、「〇〇訪問」などと記述してきましたが、組織の全体像がつかむことのできない皆さんには、理解がたい部分もあったのではないかと思います。ブラジル滞在前半のクリチバでの州教育局訪問は、先週までで終わり、来週は、ほとんど市の教育局内を訪問し、日本への一時帰国→マリンガ市訪問となりますので、一つの区切りとして組織の紹介をします。

私が、お世話になっている部署は、⑱DPPE という部署です。豊橋の学校教育課とかなり近い仕事をしている部署です。

①は教育局長、初日に訪問しました。③が「評議会」で日本の「教育委員会」といったところでしょうか。①③⑤と⑭以下⑰以下の部署については、ほとんど訪問し情報交換することができました。また、州関係では、教育事務所を2カ所訪問させていただきました。

後半のクリチバでの滞在では、スポーツ関係と、人の流れやお金の流れについて情報交換したいという思いがあったので、あえて、②⑧⑨の訪問を希望しました。

州教育局の組織



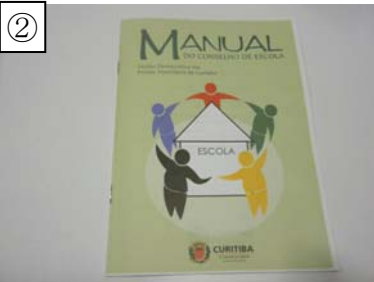
7月26日(月) 市教育局基礎教育

今週の多くは、クリチバ市の教育局の各部署を訪問することになっています。今日の訪問は、基礎教育の部署です(写真①)。この部署は、6つの担当に分かれているようです。

- ① 1日制学校担当
- ② カリキュラム担当
- ③ 青少年と大人の教育担当
- ④ 学校運営担当
- ⑤ 教務担当
- ⑥ 計画・企画担当

この中で、興味ある話題について紹介します。

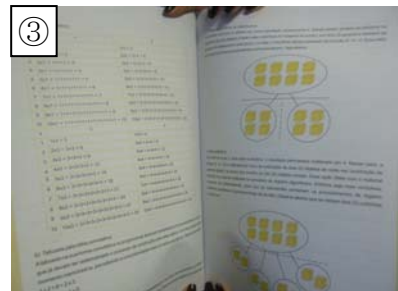
まず、1日制学校についてですが、現在クリチバ市にある179校の学校の内、完全に1日制をとっている学校は、8校。30校は子ども全員ではなく、一部の子のみ1日制。42校は、午前に授業を行い、午後は別の施設で授業や活動を一部の子のみが行っている状態だそうです(一部というのは、収容人数の関係で全員を対象にできないそうです)。ただ、1日制を採ってない2部制の学校でも、1日4時間の授業から1日5時間の授業に切り替えつつあるということです。そして、将来的には(10年ぐらいかかえて)1日6時間の1日制学校に変更していきたいという話でした。



次は、学校運営に関わる学校評議員についてです。日本の学校評議員と同じで、10数人の評議員により構成され、学校運営について毎月話し合いや勉強会をもち、学校運営について検討しているそうです。メンバーは、地域・学校・保護者の代表者から構成されており、学校評議員会の意義や何をする機関であるかなどのマニュアル(写真②)がつく

ってあり、これを使って市教育局の方も説明に回ったり、学校で説明会を開いたりし、存在価値のある会になるような取り組みをしているということです。

3点目は、教務担当に関わることで、各学校での教育が同じように行われるように市の教育方針を定め、さらにどの先生も同じように教育できるように指導法を記した「教務ノート」(写真③)をつくり、教育の均等化を図ると同時に、これを使って教員の研修も行ってそうです。クリチバ市はかなりがんばっているなと思いました。ちなみに、クリチバ市は昨年度行った全国テストで、市としてはブラジル国内で最も優秀な成績だったそうです。



最後に、市と州の連携について尋ねました(基本的に、市は1~4年、州は5~8年担当なので)。残念ながら、政権が異なるので連携は図られていないそうです。さらに、政権が変われば、現在取り組んでいることも継続されないかもしれないと、州と同じ言葉が返ってきました。政権の違いにより教育が大きく左右されたり、4・5年生を境に子どもへの方針や施策が異なったりすることはとても残念なことだと話をさせていただきました。しかし、これは、教育局で働いている人のレベルでどうしようもない内容のようです。

7月27日(火) 市教育局人材部署

今日は、クリチバ市教育局の中の、人材（日本でいえば人事）の部署を訪問しました。クリチバ市の教育局には、およそ 16000 人勤務し、そのうち 10000 人が教師だそうです(学校数は 175 校、幼児学校が 167 校ありますが、幼児学校には教師とよばれる人は少ない)。かなり恵まれた数だと思います。ここでは、この方たちの人事管理を行っています。

この部署では、主に、6つの担当があるそうです。

- ① 異動 ② 初任者対応 ③ 特別手当
- ④ 昇進 ⑤ 健康管理 ⑥ 出勤管理

この部署の中で、興味のあることを報告します。

まず、異動関係です。クリチバ南部地域教育事務



所(州)の時と同様、クリチバ市でも、基本的には先生方が希望しなければ、ずっと同じ学校から異動しないそうです。学校の活性化・均質化を考えると、異動は大切ではないかと投げかけたところ、日本の異動の考え方には理解を示してくれたが、「同じ学校で長く勤務することでよい教師集団ができる」「教師が引越す必要がない」などの理由で、なかなか現状を変えることが難しいそうであった。また、異動の担当は教員補充も行っていました。様々な補充の中で、教師の休暇の補充がおもしろかったです。クリチバでは5年経過する毎に、なんと3ヶ月の休暇をとることができるそうです。何もなくても1ヶ月の休暇が採れるのに、さらに、3ヶ月だそうです。また、毎年 500 名近く採用する新任の内、より給料の高い職業へ転職するための補充も考えなくてはならないそうです。

次は、先生方の昇進です。先生方は、給料体系として写真②のように縦方向に「高卒」「大学卒」「大学卒+α」「マスター卒」「ドクター卒」の5段階に分けられています。ちなみに、「大学卒」の初任給は、1130 レアル程度です。それぞれの体系毎に 15%アップするそうです。

また、昇進については、横方向に昇進表が決まっており、2年に1回、昇進の審査があるそうです。その審査は、2年間にその教師が行った実績（セミナーへの参加、本やビデオの出版、講師経験、論文掲載、選考会への参加、大学での勉強など）を点数化し、85 点以上獲得すれば、昇進するそうです。写真③は、どの項目で何点獲得することができるか示してあります。

日本のように、年齢増加により昇進するシステムとは異なり、先生方の実績を評価していきます。おもしろいシステムだと思いましたが、その評価項目に、子どもへの実績や貢献度がなく、全て自分が行った勉強や実績であることが寂しいと思いました。

最後に、今回説明して下さった教育局の人材担当者と市の人材局長（私の右隣）を交え、皆さんで写真④を撮りました。



7月28日(水) 市教育局 技術と教育普及の部署



今日は、クリチバ市教育局の中の、技術と教育普及の部署を訪問しました。この部署では、次の7つの担当がありました。

- ① 研修
- ② 研修センター
- ③ 図書館
- ④ 出版
- ⑤ 大学との連携
- ⑥ 技術
- ⑦ サイト管理、インターネットサポート

それぞれの担当の説明（写真①）の中で、まず興味があったことは、研修でした。それは、「ブラジルでは先生方の質の向上が急務だ」と言う話を、日本にいるときに聞いていたので、研修はそれほど行われていないのではないかと思っていたからです。ところが、話を聞いてみると、かなりの数の研修が行われていました。年間で 350 のテーマで、それぞれ 30～500 人、1回 4～100 時間の研修が行われているそうです。先生方は、サイト場に公開されているテーマから自分が受講したい研修を選択し申し込み、研修を行うそうです。テーマの内容は、教科指導法・手話・青少年と大人のための特別支援教育・地図の見方・美術・幼児教育で活用する人形作り・事故などにおける初期対応・教務担当対象の計画作りなど、広範囲にわたっていました。延べ時間数(テーマ数×参加人数×受講時間)にして 120 万時間だそうで、かなり多い研修内容です。昨日、報告したように、先生方はこれらの研修受講が、昇級のポイントになっていくので、受講者も多いそうです。そして、このような研修を行う施設（豊橋の教育会館のような施設）もあり、そこは、一日 3450 人の研修者に対応でき、220 人 1 室・90 人 1 室・50 人 12 室・その他の研修室があるそうです。研修回数も多く、研修施設もかなり充実していました。

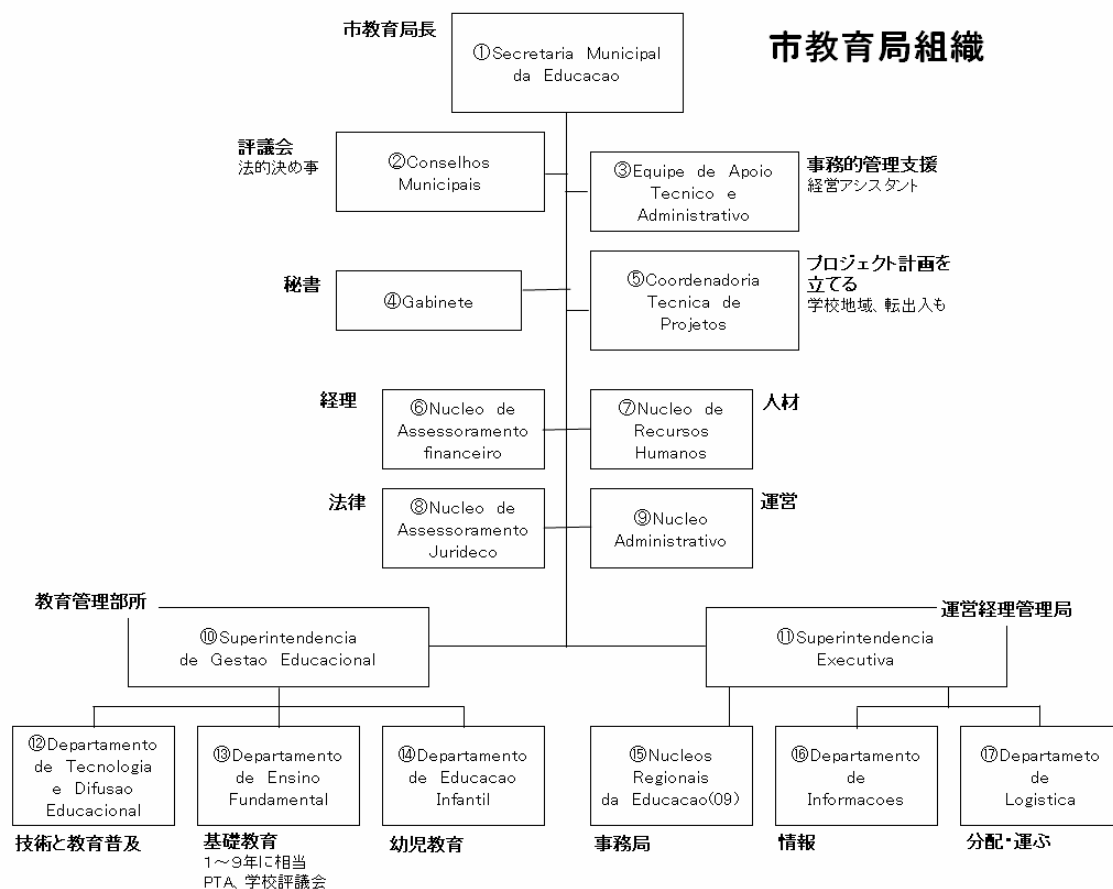
もう一つ興味深かったのは、技術の担当です。ここは、写真②③にあるようなレゴを教育に取り入れている担当です。右写真には2種類載せてありますが、実際には初級・中級・上級の3種類ありました。このレゴを目的に合わせ組み立てたり、自由な発想で組み立てたりする活動を授業に取り入れているそうです。写真②は小さい子が組み立てることを主目的とした初級用、写真③はリモコンやコンピュータ制御までできる上級用です。写真③のキットを使い、写真④のような動くロボットも作ることができ、制御はコンピュータに入力することで、子どもが望む動きをさせることができます。実際動かしてもらいましたが、自分が見ても大変おもしろいものでした。レゴの操作を通し、子どもの独創性・創造性・論理性を培っているということです。3種類のセットを全校に8セットずつ配布してあるそうで、7月6日の学校訪問で見させてもらったレゴを使った授業は、この担当から出ているのだと分かりました。



その他の担当の話も、日本の教育よりも優っている部分が多く、ブラジル教育の進み具合のすばらしさを感じた一日でした。

7月29日(水) 市教育局の組織

今日は、クリチバ市教育局の組織の説明とこれまでの関わりについて報告します。



この表中の⑥経理⑧法律⑨運営の部署は、教育局の組織に組み込まれていますが、実際は、他の局の一部として存在し、教育関係だけを扱っているわけではないようです。

6月29日、最初にここを訪問した際に、上表の組織についての概要を伺い、教育局長①・評議会議長②にもお会いしました。評議会議長には、この日に行ったプレゼンを、是非、評議会でも行って欲しいと依頼されました。7月5日には、⑤のうちの転出入担当の方を訪問し、転出入に関して今後のメールのやりとりの許可を得ました。7月6日～10日までの5日間で、クリチバ市立の学校を6校訪問させていただき、「1日制学校」「幼児学校」「特別支援学校」「2部制学校」「学校地域活動」など、学校の様子や子ども達の様子を見ることができました。

そして、今週に入り、7/26⑬基礎教育、7/27⑦人材、7/28⑫技術と教育普及の各部署を訪問し、明日7/30に⑭幼児教育と⑤のうちの学校地域担当を訪問します。

市教育局を訪問し、州教育局との相違点がいくつか見えてくるものもありました。おそらく、似ている点というのがブラジル教育の特徴になるのではないかと思います。また、異なる点というのは、それぞれの政権による施策の違いになるのではないかと思います。

7月30日(金) 市教育局、学校地域・幼児教育各部署訪問

今日は、クリチバ市教育局内の学校地域(7月10日(土)に実践校訪問済み)と幼児教育(7月7日(水)に学校訪問済み)の2部署を訪問しました。

(学校地域)

学校地域の目的は、子どもたちの非行の原因の一つと考えていた子どもたちの自由時間に、いろいろな活動を提供し、子どもの非行を減少させることでした。開始当初の2005年には31の実施校でしたが、2010年には86校に増え、クリチバ市内を9地区に分けた事務所単位では、クリチバ中心部を除く8地区全てで実施しているそうです。中心部で実施しないのは、中心部には様々な文化やレジャー施設も多く、子ども達の自由な時間を埋め合わせる必要がないからだそうです。

講座の内容は大きく5部門に分かれているそうです。

内 容	開 設 講 座 例	ある学校での 6月の参加者数
文化的な内容	ギター、バイオリン、劇、ダンス……	55人
収入増加の研修	小物作り、サービス業に関する研修、手芸……	48人
教育と市民権研修	情報処理、外国語、図書館、……	415人
スポーツ・レジャー関係	バレー、サッカー、チェス、テニス……	1628人
健康関係	講演、青少年の健康、歯磨き指導、栄養士の話……	44人

豊橋でも、地域と連携した活動を広めようとしています。目的は、違うとはいえ内容的には同様な活動が行われており、クリチバ市では当初の目的以上の成果が出て、地域で子どもを育てていこうという認識になってきているそうです。

ちなみに、本事業は、教育予算以外に約15,000万円が市から計上されているそうです。

(幼児教育)

クリチバ市の幼児教育は、市立幼児学校171校、市と連携している幼児学校87校、小学校内にある幼稚部106校の計364校で行われています。幼児数は41,613人、待機幼児数はなんと11,000程度(前回の報告の2,000人は訂正)いるそうです。しかも、これは、幼児教育を受けたいと希望している数で、該当年齢で幼児教育を受けていない子の人数は、さらに多いそうです。



この部署での目標や実践などは、教育の根本に基づいていることばかりで、実践もすばらしかったです。しかし、一番の問題は、幼児教育を受けていない子の多さです。ここでの幼児教育がすばらしいほど、小学校入学時の格差が大きくなります。これが、ブラジル教育の一番の問題のように思いました。



教育局長・シンチアさんに前半最後の挨拶もしてきました。